

かさまリアージュ

「震災を経験した 新婚さんのエピソード」

今回の地震発生直後は、携帯電話が使えず、連絡が取れなくなっただカップルも多かったはず。お互いの安否を確認する手段を決めておくことも大事なことです。

今月は、震災を経験した新婚さんのお話を紹介します。

3月11日、結婚して半年の私は笠間市の勤務先で地震に遭遇しました。これまで経験したことのない大きな揺れに驚きながらも、夫



のことが気になりました。

地震直後、夫からの電話によりお互いの無事を確認しました。

その後、私は事務所の片付けと避難所でのボランティア活動などで、夜遅くなっても携帯メールの返信さえできませんでした。

連絡の取れない私を探して、私の実家を訪ねた夫とは、そこで落ち合うことができました。

翌日からボランティア活動で自宅を留守にしていたため、割れてしまった食器などの片付けを全くできなかった私を理解し、一人で片付けてくれた夫にこれまで以上に感謝をし、改めて結婚してよかったなと思いました。

(笠間市・会社員・30歳・女性)

みなさんの結婚生活の心あたたまるエピソードお待ちしております!!

【問合せ】

〒309-1792

笠間市中央三丁目2番1号

笠間市役所 市民活動課

TEL 0296-77-1101

(内線135)

E-mail: info@city.kasama.lg.jp

市長コラム

故郷

「兎追いし かの山

小鮎釣りし かの川」

3月の震災後、皆様もこの歌を何度か耳にされたことでしょうか。そして、涙された方も多いのではないのでしょうか。幼い頃から歌ってきた歌ですが、改めて深く心にしみたことと思います。そして、自分の故郷、地域を見つめ直す機会になりました。生まれ育った地域、育ててくれた人々、語り合った仲間、見慣れた街並み、自然あふれる風景…今の自分がこうして存在するのにも、故郷へのかかわらぬ思いと地域のあたたかい支えがあったことです。

今回の震災で大きな被害を受けた、東北地方を故郷に持つ方もおいでになると思います。記憶の中の故郷が、あの日を境に大きく変貌してしまった地域も多いことでしょう。そして今後の故郷が歩もうとする行く末を案じているのではないのでしょうか。この故郷へ対する思い、愛着こそが、次の地域づくりにつながるものと思います。

「故郷は遠きにおいて思うもの」震災後、笠間を故郷と思う皆様からも、大変多くのご支援をいただきました。笠間ファンクラブの皆様をはじめ、笠間に

関係する方々からの義援金と励ましのお手紙等、皆様方の笠間への熱い思いを感じました。

私にとつての故郷はもちろん「笠間」です。「遠きにあつて」さえ笠間を思ってくださる方々がいるのですからそれ以上に、この地に住む一人として、「故郷 かさま」をより良い街にしていかなければなりません。『我慢できる故郷づくり』こそが、遠くより「故郷 かさま」に思いを寄せてくださる方々への恩返しと思っております。

後世のために何を残していくか、震災を経験した私共に課せられた使命です。

あなたの「故郷 ○○○」はどこですか。



ベビーカー贈呈式(5月22日)

笠間市長
山口伸樹